



Close Up YNU 2018

大学との「絆」をより深める、コミュニティマガジン



グローバルな人材を育成するYNU

2017年11月に在籍留学生数が
1,000人を突破し
10人に1人以上が留学生!

(アワーズ) 横浜国立大学が日本留学 AWARDS 東日本地区国公立大学部門で、 大賞を連続受賞!

日 本留学アワーズは、全国の日本語学校の教職員の方々の投票により「留学生に勧めたい進学先」を選ぶもので、2018年が7回目となります。横浜国立大学は、昨年初めて東日本地区国公立大学部門で大賞をいただきましたが、今年は東日本地区国公立大学部門で2年連続の大賞、東日本地区大学院部門で初の大賞を受賞という、大変な栄誉をいただきました。本学の教育内容や学生の満足度等、留学生の受け入れに積極的に取り組んできた姿勢を評価いただきました。

アジア大学ランキング2018に 本学が200位にランクイン

T HE(タイムズ・ハイヤー・エデュケーション)世界大学ランキングのアジア版である Asia University Rankings 2018 (アジア大学ランキング2018)の結果が2018年2月7日に公開され、本学はアジアで200位にランクインしました。

前回のアジア大学ランキング2017の201-250位(日本国内33位)から、今回のアジア大学ランキング2018では200位(日本国内31位)に、順位を上げました。特に、Research(研究)の指標では、本学は日本国内で12位となっています。本学は、今後も更なる教育・研究の発展を目指してまいります。この他、本学は世界大学ランキング評価機関が発表する各種ランキングにランクインしています。

この他の順位については、本学ホームページ世界大学ラングー覧: <http://www.ynu.ac.jp/about/ranking/index.html> をご覧ください。

文部科学省「留学生就職促進プログラム」に 採択されました

2 017年5月、本学と横浜市立大学は、文部科学省の公募事業である「留学生就職促進プログラム」に共同で応募し、提案が採択されました。今後、両大学は、神奈川県、横浜市らと連携し、日本語教育、キャリア教育、インターンシップ等を拡充していく計画です。これらの活動により、外国人留学生の県内での定着を図るとともに、日本留学の魅力を高め、諸外国からの留学生増加をめざします。

本プログラムの開始に伴い、留学生就職支援コーディネーターが、留学生の社会人基礎力を高めるための講座や、インターンシップ先の紹介などを行い、留学生の就職活動に向けた準備のサポートをしています。新たに立ち上げたウェブサイトでは、イベントの告知や報告を行い、今後は、留学生の体験談なども充実させていく予定です。

☞ <http://www.careerjapan.ynu.ac.jp/>

YNUの国際ブランチ(海外協働教育研究拠点)

- ▶ ベトナム: ダナン大学ブランチ
- ▶ フィンランド: オウル大学ブランチ
- ▶ 中国: 北京ブランチ
- ▶ タイ: プリンス・オブ・ソンクラ大学ブランチ
- ▶ ブラジル: サンパウロ大学ブランチ
- ▶ アメリカ: ポートランド州立大学ブランチ

ダナン大学 (2014年6月設置)

2017年9月18日～22日の5日間、ダナン大学ブランチで特別講義「CAEにおけるワークショップ～V&Vの基礎と実践～」を実施しました。工学研究院 荒木拓人准教授および下野誠通准教授、環境情報研究院 松井和己准教授が、ダナン工科大学の機械、交通機械、電気、電子学部の4分野において授業を実施しました。授業は、工学シミュレーションを適切に運用するための指針であるV&V(Verification & Validation)に関して、実験や実習を含むワークショップ形式で実施しました。授業の継続を望む声を受け次回は2018年9月実施予定です。

オウル大学 (2015年11月設置)

2017年4月3日、オウル大学にて異文化交流と国際協力を祝うイベント「Festival of Cultures and Cooperation」を開催しました。オウル大学は現在88カ国からの学生・研究者が在籍しており、合計30以上のプレゼンテーション、演奏、民族衣装の試着などの文化紹介イベントが行われました。2018年6月には本学教育学部附属横浜中学校においてオウル大学学生のインターンシップ受け入れ、8月には附属横浜小学校長らがオウル大学を訪問するなど、教員・学生の交流を深めています。定期的な交流活動により、本学へ留学を希望するオウル大学の学生数は、日本の大学で最多です。

プリンス・オブ・ソンクラ大学 (2017年6月設置)

2017年6月20日、プリンス・オブ・ソンクラ大学ブーケットキャンパスにおいて、国際ブランチ設置に関する協定を締結しました。プリンス・オブ・ソンクラ大学はタイ王国南部において最も古い歴史をもつ国立大学で、本学とは2012年より大学間交流協定を結んでいます。今後、特に環境科学、自然科学、経営学、都市開発らの分野におけるタイや周辺諸国の研究開発、人材育成の拠点として運営する予定です。ハジャイキャンパスでのサマープログラム(2018年夏実施)などを通じて、学生交流も積極的に行っています。

ポートランド州立大学 (2017年9月設置)

2017年8月31日、ポートランド州立大学(アメリカ)において、同大学との国際ブランチ設置に関する協定を締結。ポートランド州立大学とは2014年に大学間学術交流協定を締結し、海外集中キャンパスの学生派遣など、交流を行ってきました。締結式では、長谷部学長から都市の分野を中心とした交流を進めていきたい旨が述べられました。都市イノベーション学府の学生がポートランド州立大学での研修プログラム(2018年3月)に参加するなど、都市計画・交通計画分野の教育・研究拠点として活用されています。

大学の動き

2018年4月、2つの大学院が新体制でスタート！

2018年4月、本学は理工学府の設置及び環境情報学府の組織改編を行い、両学府は新たな体制でスタートしました。本学では、この新体制により両学府において社会のニーズに即した新たな教育プログラムを実施するとともに、多様な業界で新しい価値の創造や技術革新を導くことのできる付加価値の高い人材の育成に取り組んでいきます。

理工学府は博士課程前期・後期ともに、

機械・材料・海洋系工学専攻、化学・生命系理工学専攻、数物・電子情報系理工学専攻の3専攻となります。自らの専門分野以外の分野の科学技術にも目を向ける進取の精神に富み、高い倫理観とグローバルに活躍するために必要な国際的に通用する知識と能力において、理学と工学の両方のセンスを兼ね備えた理工系人材を育成します。

環境情報学府は博士課程前期・後期ともに、現在の5専攻を人工環境専攻、自然

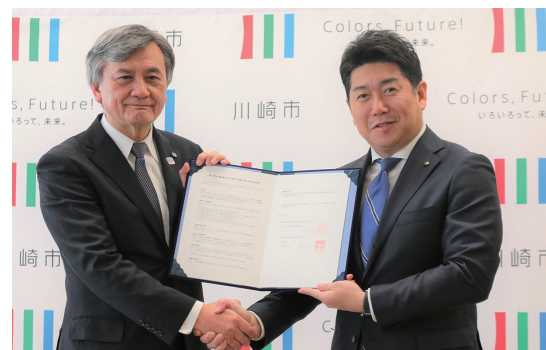
環境専攻、情報環境専攻の3専攻に改編し、環境と情報を基軸に分野横断的領域及び文理融合分野の教育をより一層強化します。個々の専門分野に特化した知識や技能と分野を越えたコミュニケーション力を兼ね備えた能力を身に付けるための教育プログラムを配し、安心・安全な持続可能社会の実現に貢献できる高度専門職業人を育成します。

YNUの地域連携・地域との繋がりを強化

川崎市と連携・協力に関する協定を締結

横浜国立大学は、2018年1月16日、川崎市と連携・協力に関する協定を締結しました。本協定は社会課題の解決及び地域社会の持続的な発展に資することを目的とし、川崎市内の小中学校と教育学部や教職大学院が協力するほか、起業家の育成、まちづくりなどの様々な分野で連携する予定です。協定は、①次代を担う

子どもや若者の教育・人材育成に関すること、②産業の振興及び新たな活力と社会変革を促進するイノベーション推進に関すること、③持続可能なまちづくり及び川崎らしい魅力の創出に関すること、④多様性を活かしたグローバル都市の推進に関すること、を中心に連携関係を充実・強化していきます。



福田 紀彦・川崎市長(右)と
長谷部 勇一・横浜国立大学学長(左)の締結の様子

講義「神奈川のみらい」にて
黒岩神奈川県知事が講義

本学では、2017年1月締結の神奈川県との包括連携協定に基づき、神奈川県知事や神奈川県職員の方々が講師となり、県の政策を横断的に講義する「神奈川のみらい」を2017年10月より開講しています。この一環として、12月22日は黒岩知事が本学に來学され、講義を行いました。講義は「知事との白熱教室～人生100歳時代の設計図～」というテーマのもと、「いのちと命」というキーワードをもとに、知事ご自身の体験を交え未病についてお話しいただきながら、知事と学生との活発なディスカッションにより進められました。

なお、講義「神奈川のみらい」については、2018年度についても開講される予定です。

本学の最寄り駅 相鉄・JR 直通線新駅名称が
「羽沢横浜国大」と発表

2017年12月11日、相模鉄道株式会社は、2019年度にJR東日本と相互直通運転を開始する新線上で開

業する新駅の駅名を「羽沢横浜国大」とし、今後関係自治体との協議を進めていくことを発表しました。

◆◆◆ 中村理事(地域担当)のコメント ◆◆◆

羽沢の貨物駅に隣接する敷地に誕生するこの新しい駅は、大学の北門、西門から最も近い駅となり、大学へのアクセスは格段に向上することが期待されます。

今回の駅名発表は、大学の存在感という面でも意義のあるものです。地域との連携を重視する本学は、新駅の開業を契機に、羽沢地区を中心とする神奈川区内の地域のまちづくりと強く連携していきたいと考えています。

大学では相鉄ホールディングス株式会社および相模鉄道株式会社と連携し、「神奈川東部



羽沢横浜国大駅外観(イメージ)

方面線開業に関わる地域経済効果」等の研究を進めており、新駅開業で大きく発展することが期待される当該地区とともに、大学がより発展していくように、今後いっそう尽力する所存です。

横浜国立大学理事(地域担当)・副学長
中村 文彦

藤嶋昭名誉博士文化勲章受章記念講演会を開催

2018年2月20日、2017年に文化勲章を受章された工学部電気化学科の卒業生である藤嶋 昭名誉博士による受章記念講演会を開催しました。当日は祝賀会を兼ねた母校での受賞記念講演会として、藤嶋先生の同級生や、研究内容に関心を持つ高校生を中心に200人以上が参加しました。

藤嶋先生は、1967年に酸化チタンに紫

外線を当てることで水電解に必要な電圧が下がることを発見し、光触媒や光電気化学の分野を開拓された功績により文化勲章を受章されました。

講演では、世界中から注目されている「光触媒」を完成させたことやその経緯等を解説されました。藤嶋先生の酸化チタンによる光触媒の研究成果は、本学の事務局外壁ルーバーにも実装され、省エネ

ギー化に役立てられています。また、「空はなぜ青いの?」「橋の入口と出口の違いは?」などの生活

に身近な疑問を取り上げ、小さな発見や感動が研究や新たな発見につながっていることを語られました。



「都市科学部開設記念シンポジウム」を開催

都市科学部では、学部への使命やこれからの発展を共に考える場として、新入生への歓迎の意も込めて、毎年シンポジウムを開催しています。第1回「開設記念シンポジウム」(2017年6月10日開催)では各学科教員による講演のほか、本学卒業生である小林一美横浜市政務局長、花田琢也日揮株式会社インフラ統括本部事業開発本

部長を交えたパネルディスカッションが行われ、都市科学の専門分野の深さを感じるとともに、横断的な視点の大切さを学びました。

第2回の「ヨコハマを都市科学する」(2018年7月21日開催)では、昨年パネリストとしてお迎えした小林一美横浜市政務局長と、中村文彦理事(国際・地域・広報担当)が講演し、横浜という都市への理解を深めるとともに、本



学がどのように地域に貢献できるかを考える機会となりました。

「IAS Dissemination Conference」を開催

本学先端科学高等研究院(IAS)は、2018年1月30日、「IAS Dissemination Conference－リスク共生学の確立に向けた取り組み－」を開催しました。当日は、ビルケント大学(トルコ) Provost of the Prof. Adnan Akay、中国科学院科学技術戦略諮問研究院 シニアフェローの Prof. Liu Haibo、United Technologies Research Center(米国) Associate Director of Research の Prof. Y. (John) F. Khalil の3名を海外招待研究者として迎えました。

当日は、長谷部勇一学長と伊藤洋一文部科学省文部科学審議官による挨拶に始まり、野口和彦リスク共生社会創造センター長の展望講演「リスク共生社会の構築に向けて」、

三宅淳巳副高等研究院長の講演「IASの研究活動サマリー」、3名の海外招待研究者による特別講演、森下理事(研究担当)の講演「IASの展望」等を実施しました。今回のイベントを通して、本学が推進する「リスク共生学」という新たな学問領域への関心の高さが伺えました。

IASは、2018年4月より第2フェーズに入り、サイバー・ハードウェアセキュリティ、理工系と経済・経営が連携横断した社会価値イノベーション、社会および産業インフラのリスク共生などの分野を、さらに発展させて推進していきます。研究活動やその成果を活用して積極的に人材育成を推進し、安全・安心で持続可能な活力ある未来社会の実現を目指します。

YNUの連携協定一覧(2017年度)

地域社会と連携する中核拠点として、本学では2017年4月に地域連携推進機構を設置し、地域連携活動を推進しています。

地域に信頼され、地域に支えられ、地域の発展を支援するという、横浜国立大学の地域戦略における3つの精神を軸に、本学の研究力や教育力を地域問題解決へ還元し、積極的に地域連携活動を推進していきます。

富士ゼロックス株式会社 (2017年5月)

地域の活性化とそれを担う人材の育成、及び大学の教育、研究機能の向上を図ることを目的として、連携・協力

関東学院大学 (2017年8月)

学術研究、教育等における相互協力・連携体制の構築を目的

株式会社日本政策金融公庫 (2017年9月)

幅広い分野(教育活動、研究活動、地域振興活動、女性活躍推進活動、国際交流等)で相互に協力・連携し、地域経済の活性化及び地域社会の発展に寄与することを目的

川崎市 (2018年1月)

社会課題の解決及び地域社会の持続的な発展に資することを目的

箱根町 (2018年2月)

社会課題の解決及び地域社会の持続的な発展に資することを目的

横浜税関 (2018年3月)

国際貿易の円滑化・活性化に資する幅広い分野での教育研究、相互の人的・知的資源の交流、地域社会の発展を図ることを目的

「人生 100 年時代」などのテーマで活躍する関 ふ佐子教授と、平成 29 年度横浜国立大学優秀研究者賞を受賞され、地域防災力の向上にも取り組まれる細田暁准教授の研究をご紹介します。

人生 100 年時代における高齢者法

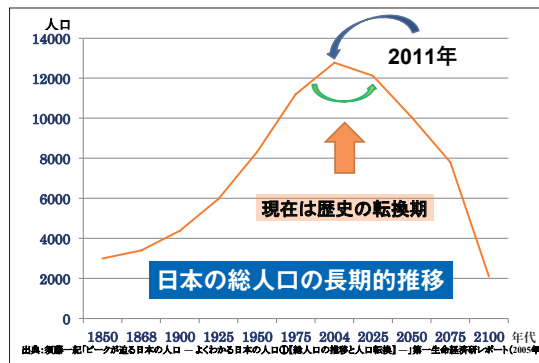
国際社会科学研究院 関 ふ佐子教授

日本は人生 100 年時代を控え、2050 年には 200 人の人口のうち 1 人は 100 歳以上になると予測されています。こうした長寿社会では、心身が弱り介護を必要とする高齢者から、バリバリ働く者、ボランティアをして社会貢献する者など、高齢者の姿は多様化しています。とはいえ、若いころと比べると心身ともに弱る人が増え、また死がより身近であるために若いときとは異なる対応が必要な場合もあります。さらに、高齢者は、長い人生を生きてきたことから「お疲れ様」と社会が暖かく接したくなる人たちです。例えば、若い人は働けないことが生活保護の受給要件の 1 つとなっていますが、

65 歳を過ぎると、働く体力があっても、働かずとも生活保護の受給要件を満たす場合があります。なぜなのでしょう。

わたしの研究では、高齢者という理由で他の世代とは異なる法制度が必要な場合を探り、その法制度の内容を考えています。さらに、高齢者特有の法制度について分野横断的な研究をする高齢者法という法分野が、日本に未だ浸透していないため、高齢者法を日本に確立できないかと他の研究者とともに探っています。

グラフは 250 年間の長期にわたる人口の推移を示したものです。2011 年を境に日本



は人口減少社会に突入しましたが、人口が増えてきた時代と減少する時代とでは、社会の姿は同じでよいはずはありません。この歴史の転機に、日本の将来像について、高齢社会の姿について研究できていることにワクワクしています。

SEKI Fusako
大学院国際社会科学研究院
研究分野：高齢者をめぐる
社会保障制度、高齢者法



災害に強く活力のある社会のために

都市イノベーション研究院 細田 暁教授

私は土木工学の分野で研究しています。研究や教育の活動は多岐に渡りますが、社会活動を根底から支えるコンクリート構造物に関することが専門です。コンクリートでできているインフラは、橋、トンネル、上下水道、ダム、河川、港湾、空港、建築物など様々なものがあります。これらのインフラが無ければ、私たちの現代文明は全く成り立ちません。また、自然災害のリスクが極めて高い我が国においては、便利な暮らしどころか、生命を守ることでもインフラなしでは無理です。

コンクリートやインフラに関する研究は非常に多くの研究者、技術者等が連携して進めていきます。社会のために、みんなの力を合わせるというやり方が私は大好きです。その中で私は、コンクリートのインフラがなるべく長持ちするように設計され、現場で施工されるための研究に一番力を注いでいます。適当に造っても形はできるのですが、日

本のような厳しい環境条件では、短期間で劣化し、逆に社会に負担をか

けてしまうことも生じています。私たちのチームが提案してきた高品質のインフラを造るシステムが東北の復興を始め、日本各地で展開されようとしており、私も使命感に燃えて日本全国を飛び回り、研究、教育を行っています。

インフラの重要性はなかなか理解されません。多くの人に理解されるために、大学の土木史の授業で、インフラがなければ、私たちの生活やこれまでの歴史が成り立たないことを教えたり、小中学校等の防災授業を研究として行い、防災という観点から災害やインフラに対する意識を覚醒するような授業を学校の先生たちと連携しながら行ったりしています。



左／広島県福山市の鞆小学校での防災授業 右／岩手県の田老第六トンネル（復興道路）の建設現場で監理技術者を務める教え子と



HOSODA Akira
大学院都市イノベーション研究院
教授
研究分野：コンクリート工学、
建設マネジメント、メンテナンス工学



窓
-まど-

最近の大学の動きや気になるトピックを
今注目の人が紹介しています。



津村明子
研究推進機構
特任教員（講師）／
リサーチ・アドミニストレーター

URA（University Research Administrator）として、本学の研究活性化のために研究の様々なコーディネートをしています。現在は特に研究広報に取り組み、本学の研究情報を世界に発信しています。

研究推進機構の活動についてもっと知りたい！
「横国 研究推進」で検索



サイエンス
カフェのご案内



YNUの研究力

第14回神奈川産学チャレンジプログラムで本学の8チームが入賞！

2017年12月19日に、第14回神奈川産学チャレンジプログラムの表彰式がパシフィコ横浜で開催されました。

神奈川産学チャレンジプログラムとは、神奈川県内の大学と社団法人神奈川経済同友会に加盟する企業及び団体が中心となっていく学生の人材育成を目的とした課題解決型研究コンペです。企業及び団体が抱える経営課題をテーマにあげ、学生

チームがこれを研究し、実効性のある解決策を研究レポートとして提示します。

2017年度は、神奈川県内の20大学から240チームが参加し、72チームが入賞し、本学からは12チームが参加し、2チームが最優秀賞、6チームが優秀賞を受賞しました。いずれのチームも、企業の担当者から「より具体的に提案してもらえたこと

がよかった」等といったレポートに対する高い評価を受けていました。

表彰式当日には、最優秀賞を受賞した国際社会科学研究院 真鍋 誠司教授のゼミのチームが代表として発表を行いました。学生の今後の活躍に期待しましょう！



学生課外活動表彰式の実施



3月20日、課外活動で優秀な成績を収めた学生・団体へ、長谷部学長より表彰状が贈られました。

2017年度課外活動成績優秀者一覧 ※学生の学年は表彰当時

団体名	学生氏名	主な出場大会	成績
水泳部	山崎雅幸 さん(理工学部3年)	第89回関東学生選手権(横浜国際プール)長水路 (平成28年8月) 第90回関東学生選手権(横浜国際プール)長水路 (平成29年8月)	男子4部100m平泳ぎ 2位 男子4部100m平泳ぎ 2位
水泳部	神田莉央 さん(理工学部2年)	第89回関東学生選手権(横浜国際プール)長水路 (平成28年8月) 第90回関東学生選手権(横浜国際プール)長水路 (平成29年8月)	男子4部100m自由形 2位 男子4部100m自由形 2位
陸上競技部	青柳良英 さん(理工学部4年)	第65回関東甲信越大学体育大会 陸上競技の部 (平成28年8月) 第66回関東甲信越大学体育大会 陸上競技の部 (平成29年8月)	男子1500m 優勝 男子1500m 優勝
陸上競技部	中野彬徳 さん(理工学部3年)	第65回関東甲信越大学体育大会 陸上競技の部 (平成28年8月) 第66回関東甲信越大学体育大会 陸上競技の部 (平成29年8月)	男子100m 優勝 男子100m 優勝
スポーツチャンバラ剣会	原科太一 さん(経営学部3年)	THE 43rd ALL JAPAN SPOCHAN CHAMPIONSHIP (平成29年8月) スポーツチャンバラ第二十四回全日本学生大会 (平成29年10月) 10th SPOCHAN ASIA&OCEANIA CHAMPIONSHIP in JAPAN (平成29年11月)	二刀 初段以上の部 優勝 打突競技の部グランドチャンピオン 有段男子 橋長剣 優勝 有段男子 短槍 優勝 打突競技 グランドチャンピオン 二刀 初段以上の部 優勝 国別対抗団体戦 優勝
スポーツチャンバラ剣会	神馬菜那 さん(教育学部1年)	スポーツチャンバラ第二十四回全日本学生大会 (平成29年10月)	新人女子 長剣フリー 優勝
スポーツチャンバラ剣会	山村知暉 さん(経営学部1年)	スポーツチャンバラ第二十四回全日本学生大会 (平成29年10月)	新人男子 グランドチャンピオン 新人男子 長剣フリー 優勝
スポーツチャンバラ剣会	中森唯斗 さん(理工学部1年)	スポーツチャンバラ第二十四回全日本学生大会 (平成29年10月) 10th SPOCHAN ASIA&OCEANIA CHAMPIONSHIP in JAPAN (平成29年11月)	新人男子 短刀 優勝 短刀 ALL 準優勝
スポーツチャンバラ剣会	渡瀬航大 さん(理工学部1年)	スポーツチャンバラ第二十四回全日本学生大会 (平成29年10月)	新人基本動作 優勝

PICK UP

※学生の学年は受賞当時

理工学部4年生の研究が学術論文誌に掲載

2018年1月、理工学部4年生河崎太郎さんの学術論文が学術論文誌『Computer-Aided Design』に掲載決定

河崎さんは1年生の時から研究に参加できるROUTEプログラムに参加し、シンガポール南洋工科大学との共同研究に参加するなど精力的に研究活動に励んだ。

第7回「学生観光論文コンテスト」で優秀賞を受賞

日本ホテル教育センター主催のコンテストで経営学部3年の丹野百絵さんを代表とした4名が優秀賞を受賞

受賞対象となった論文題目はテーマB「古民家を活用した観光まちづくりのあり方」。古民家を活用して地域活性化につなげるという観点で論文を執筆した。

附属鎌倉中学校の紹介

活躍する附属鎌倉中学校の部活動

附属鎌倉中学校の部活動は、平日は水～金曜日の16～18時で活動しています。2018年夏は、柔道部男子団体が県大会に出場し、陸上競技部では女子200mで県2位となり、関東大会、全国大会への出場を果たしました。また、軟式野球部は、開校以来初の県大会ベスト4の快挙を成し遂げ、千葉県で行われた関東近県選抜大会に出場しました。

附属鎌倉中学校の有志合唱団

有志合唱団は、毎年2,3年生の男女の有志40～60人で編成されます。メンバーは、部活動や学校外の活動等を行っており、その合間を縫って合唱に取り組んでいます。2018年夏は、NHK合唱コンクール及び全日本合唱連盟主催コンクールの県予選において、共に金賞を受賞し、ダブル関東大会の出場を果たしました。

PICK UP YNU ウェブサイトコンテンツのご案内

— 卒業生と学長の対談企画「YNU CROSS TALK」掲載 —

本学ウェブサイト上にて、学長対談企画「YNU CROSS TALK」を掲載中です。

今回の企画は、森ビル株式会社の代表取締役社長 辻 慎吾氏（本学大学院工学研究科修了）との対談です。大学と企業がどう協力していき、未来の都市を造り上げていくのか。右記のQRコードからぜひ是非ご覧ください。

大学ウェブサイト「YNU CROSS TALK」

◎ http://www.ynu.ac.jp/special/ynu_cross_talk/vol.02/index.html



卒業生・基金室からのお知らせ

未来を創るYNUとして発展を続けていくためにも、皆さまの支援が必要です。

横浜国立大学卒業生・基金室では、教育・研究支援や学生支援等に役立てるためのご寄附をお願いしております。横浜国立大が未来を創る若者を育み、社会に貢献し続けるために、ご支援をお願いいたします。ご寄附の申し込みにつきましては、基金室のウェブサイトをご覧ください。

卒業生・基金室ウェブサイト

◎ <http://kikin.ynu.jp/>



横浜国立大学基金
YOKOHAMA National University Fund

Let's go
YNU!

YNUミュージアムのご案内

YNUミュージアムは、小学校教員養成所設置から140年以上、新制大学として60余年の伝統と歴史を積み重ねてきた横浜国立大学の歴史や、貴重な科学技術資料を展示しています。2018年7月より、YNUミュージアムの開館時間が、常盤台地区連合町内会のボランティアの皆様のご協力のもと、月曜・水曜・金曜の11時～14時に変更になりました。

また、教育学部講義棟8号館のミニ博物館に長く展示しておりました、パレオパロドキシア泉標本復元骨格と常盤台地区から発掘された土器もミュージアムに移設され現在展示中です。

ぜひ、皆様一度足を運んでみてください。

YNUミュージアム

◎ <http://www.ynu.ac.jp/about/center/museum/index.html>



卒業生・修了生の皆様へ データ登録のお願い

本学では卒業生との連携を深めることを目的として、卒業生・修了生の方々に連絡先、就職（進学）先等のウェブによるデータ登録をお願いしています。登録データの使用内容は以下の通りとなります。

- ・ 大学最新情報案内のメールマガジンの配信（月1回程度）※希望者のみ
- ・ 本学ウェブサイトや広報誌等の卒業生インタビューのお願い
- ・ 登録情報を同窓会へ提供 ※許諾者のみ
- ・ YNU ネットアドレス（生涯メール）の登録／確認

左記のこと以外の利用および提供は一切いたしません。
また、関係法令及び本学規則等により個人情報として適正に管理し、使用いたします。

本趣旨と使用内容をご理解の上、ご賛同いただける場合は、ご登録をお願いします。

登録
方法

パソコンより下記ページにアクセスしてください。

詳しくはこちら 横浜国立大学ウェブサイト → 「卒業生の方」 → 「卒業生・修了生データ登録」

YNUネットアドレスサービスのご案内

詳しくはこちら ◎ www.ynu.ac.jp/about/project/netaddress/

YNU ネットアドレスサービス（生涯メールサービス）は、本学が、卒業生・修了生並びに学生及び教職員を対象として、在学・在職時から生涯に亘って利用できるメールアドレスです。

本サービスは、Microsoft社が教育機関向けに無料で提供しているメールサービス「Office365 for Education」を利用し、本学が公的に保有するドメインである「@ynu.jp」を付したメールの送受信を行うものです。メールサーバ本体の運用管理はMicrosoft社が行いますが、利用者管理は本学側が行うことになります。送受信は、主にウェブメールで行います。

YNU ネットアドレスサービスのご利用は、左記の「卒業生・修了生データ登録システム」よりお申し込みください。